

「萩原朔太郎大全 2022 朔太郎と写真」

2022年11月19日(土)～2023年3月5日(日)



萩原朔太郎《活動写真館通り》大正時代 (提供：水と緑と詩のまち 前橋文学館)



萩原朔太郎《前橋公園のトンネル》大正11年ごろ (提供：水と緑と詩のまち 前橋文学館)



はじめに

萩原朔太郎没後 80 年となる 2022 年に「萩原朔太郎大全 2022」と題して、全国各地の 52 か所の文学館、美術館、大学等で萩原朔太郎をテーマとする展覧会が開催されます。アーツ前橋では「萩原朔太郎大全 2022」の参加企画として、1F ギャラリーで「朔太郎と写真」を開催します。

萩原朔太郎にとって「写真」とは、「言葉」の他に詩心を表現するもうひとつの手段でした。17 歳で初めてカメラと出会って以降、生涯を通じてカメラは常に朔太郎とともにありました。本展では、朔太郎自身が撮った前橋を中心とする風景写真や、朔太郎の詩や写真などに触発されて制作された写真作品を紹介します。「写真」という「詩」以外の側面からのアプローチによって、朔太郎の人物像に迫っていきます。

開催概要

- 展覧会名：「萩原朔太郎大全 2022 朔太郎と写真」
出品作家： 萩原朔太郎 萩原朔美／吉増剛造／木暮伸也
会場： アーツ前橋 1F ギャラリー
観覧料： 無料
会期： 2022 年 11 月 19 日（土）～2023 年 3 月 5 日（日）
開館時間： 10:00～18:00（入場は 17:30 まで）
休館日： 水曜日、年末年始(2022 年 12 月 28 日（水）～2023 年 1 月 4 日（水）)
主催： アーツ前橋
助成： 一般財団法人ぐんま食と歴史文化財団
協力： 前橋文学館、萩原朔太郎研究会

関連イベント

関連トーク 「詩人と写真」

- 日時：2023 年 1 月 21 日（土） 会場：前橋文学館 3F ホール
出演：萩原朔美（前橋文学館館長）、吉増剛造（詩人）、木暮伸也（写真家）

担当学芸員によるギャラリートーク

- 日時：2022 年 12 月 10 日（土）2023 年 2 月 19 日（日） 14:00-15:00
会場：アーツ前橋 1F ギャラリー

◎詳細はアーツ前橋 HP をご確認のうえ、お電話 027 230 1144（代表）にてお申込みください

◎事前申込制のイベントは定員に達し次第、締め切らせていただきます。

◎新型コロナウイルス感染症の状況により、変更・中止となる場合がございます。

本展の見どころ

- ・萩原朔太郎撮影の前橋を中心とする大正から昭和にかけて撮影された風景写真をはじめとして立体写真用台紙付プリント、写真原版などの貴重な資料を展示します。
- ・朔太郎が撮影した写真と同じ場所で年月を経て撮影した萩原朔美の写真作品によって、時代を超えて前橋の今と昔の街の風景を見ることができます。
- ・朔太郎自身やその肖像画などに触発されて制作された、吉増剛造ポラロイド写真、木暮伸也による本展に向けての新作を含む写真作品も出品されます。

【 出品作家 略歴 】

萩原朔太郎 1886年群馬県前橋市生まれ

詩人。従兄である萩原栄次から短歌の手ほどきを受け、文学の道に入る。その後、北原白秋主宰の詩誌「^{サムボア}朱鸞」に投稿をはじめ、室生犀星らと親交を深める。1917年に第一詩集『月に吠える』を刊行。口語の緊迫したリズムで、感情の奥底を鮮烈なイメージとして表現し、後の詩壇に大きな影響を与え、1923年出版の『青猫』で、口語自由詩の確立者として不動の地位を得る。音楽や手品とともに写真に造詣が深く、長年にわたり立体写真を愛好した。主な詩集に、『月に吠える』（感情詩社・白日社）、『青猫』（新潮社）、『蝶を夢む』（新潮社）、『氷島』（第一書房）、『宿命』（創元社）などがある。

萩原朔美 1946年東京都生まれ

映像作家、エッセイスト。多摩美術大学名誉教授。金沢美術工芸大学客員教授。母は小説家萩原葉子、母方の祖父は萩原朔太郎。1967年、寺山修司主宰の演劇実験室・天井棧敷の立ち上げに参加、俳優・演出家として活躍。1975年、月刊誌「ビククリハウス」をパルコ出版より創刊し、初代編集長を務める。著書に『「演劇実験室・天井棧敷」の人々』（2000年）『毎日が冒険』（2002年）『死んだら何を書いてもいいわ』（2008年）『劇的な人生こそ真実』（2010年）他多数。2016年4月より前橋文学館館長。2022年4月よりアーツ前橋アドバイザー。

吉増剛造 1939年東京都生まれ

詩人。慶應義塾大学在学中から『三田詩人』『ドラムカン』を中心に詩作活動を行い、先鋭的な現代詩人として高い評価を得る。60年代末から詩の朗読を続ける一方で、現代美術や音楽とのコラボレーション、写真などの活動も意欲的に展開してきた。詩集「黄金詩篇」で第1回高見順賞、詩集「『雪の島』あるいは『エミリーの幽霊』」で第49回芸術選奨文部大臣賞を受賞。18年間にわたり萩原朔太郎賞の選考委員を務める。

木暮伸也 1970年群馬県前橋市生まれ

写真家。1990年北関東造形美術専門高等課程修了。1993年東京芸術専門学校研究科修了後、白川昌生らが中心となり設立したICPA現代アート研究所に入所。2005年より写真表現を中心に活動をおこない、自らの生活環境、故郷を作品のテーマの中心に据えている。作品は白井屋ホテル、アーツ前橋に収蔵されている。本展に向けては萩原朔太郎の生家をモチーフとした新作を発表する。

内覧会／プレス向けツアー

【期 日】2022年11月18日（金）

【時 間】内覧会 13:00～18:00

プレス向けツアー ※出品作家と担当学芸員が作品を紹介します。

① 13:30～「朔太郎と写真」展

② 14:30～「潜在景色」展

※ 要事前申込 下記 FAX 申込書により（E-mail 添付でも可）

FAX 申込書（FAX）

貴社名：	
部署名：	担当者：
所在地：	〒
TEL：	FAX：
E-mail：	
※参加予定のツアーに○を付けてください	
①13:30～「朔太郎と写真」展ツアー ②14:30～「潜在景色」展ツアー	

お問い合わせ先

前橋市役所文化スポーツ観光部文化国際課 アーツ前橋

担当：上田、堺（広報担当）、北澤、新井（学芸担当）

〒371-0022 群馬県前橋市千代田町 5-1-16

TEL：027-230-1144 FAX：027-232-2016

HP：<https://www.artsmaebashi.jp/>

E-MAIL：artsmaebashi@city.maebashi.gunma.jp

交通案内

●公共交通機関

JR「前橋駅」北口から徒歩約10分

上毛電鉄「中央前橋駅」から徒歩約5分

●自動車

関越自動車道「前橋 I.C.」から車で約15分

※地図内㊦マークの駐車場のご利用に関しては駐車券に割引処理いたします。



アーツ前橋 「 萩原朔太郎大全 2022 朔太郎と写真 」

広報用画像申込書

【1】



【2】



【3】



【4】



記事掲載についてのお願い

- ・掲載にあたっては、展覧会名と会期を表記してください。
- ・画像等を掲載する場合は、キャプション・クレジット等を正確に表記してください。
- ・掲載記事やVTRは、資料として保管いたしますのでアーツ前橋までご送付ください。
- ・取材及び収録等の際は、必ず事前にお問い合わせください。

アーツ前橋 広報担当 宛 FAX 027-232-2016

ご希望の画像の番号に○をつけてください。画像(JPEG)をメールにてお送りいたします。

*画像の使用は本展覧会の広報を目的とする場合に限り、個人のブログ等への掲載や鑑賞等を目的とする場合には提供できません。

*掲載にあたっては、キャプション・クレジット等を正確に表記してください。

番号	キャプション・クレジット等
【1】	萩原朔太郎《活動写真館通り》大正時代 水と緑と詩のまち 前橋文学館 所蔵
【2】	萩原朔太郎《前橋公園のトンネル》大正11年ごろ 水と緑と詩のまち 前橋文学館 所蔵
【3】	萩原朔太郎《桑町通り》昭和4年ごろ 水と緑と詩のまち 前橋文学館 所蔵
【4】	萩原朔太郎《藤棚と池》大正末期 水と緑と詩のまち 前橋文学館 所蔵

媒体情報 *できるだけ詳しくご記入ください。

媒体名：	
発行日：	発行元：
貴社名：	
部署名：	〒 担当名：
所在地：	
TEL：	FAX：
E-MAIL：	